

神奈川新聞
2014.3.19

市男女共同参画貢献表彰式 3個人1団体が受賞

表彰式 記念講演



林市長（左から4人目）から表彰を受けた受賞者ら
＝ワークピア横浜

第3回横浜市男女共同参画貢献表彰の表彰式が18日、横浜市中区のワークピア横浜で行われた。3個人1団体が受賞し、林文字市長から表彰状とトロフィーが贈られた。

功労大賞には、映画「ブラガール」で松雪泰子さんが演じたダンス教師のモデルとなったポリネシア舞踊研究家の早川和子さん(82) Ⅱ港北区Ⅱと、重症心身障害者の地域社会への参加の

必要性を説き、立ち上げた障害者通所施設「朋」の取り組みが国のモデル事業となった社会福祉法人「訪問の家」理事の日浦美智江さん(75) Ⅱ栄区Ⅱの2人が選ばれた。

推進賞は、女性リーダーとして地域の課題に取り組む青葉台連合自治会会長の山川英子さん Ⅱ青葉区Ⅱと、地域全体で子育て家庭を支える取り組みを続けているNPO法人「親がめ」 Ⅱ神奈川区Ⅱが受賞した。

早川さんは「祖先と故郷を愛するフラダンスに接し、半世紀を過ごしてきた。緑多い横浜の地で、私のモットーである太陽とヒマワリのように皆さんと明るく希望を持って生きていきたい

い」と喜びを語った。
日浦さんは「重い障害児者に出会って42年。人は人の中で人となるということを実感した。子どもをしつかりと抱える母親たちの明るさ、行政に支えられてきた。横浜市民であることを誇りに思う」と万感の思いを込め、受賞のあいさつをした。

記念講演では、寿町の診療所で32年間、医師として地域医療に取り組み、昨年の功労大賞を受賞した佐伯輝子さん(84)がユーモアを交えて自身の歩みを語り、会場からはうなずきとともに笑いがあちこちで起きた。

(桐生 勇)